

中部方面混成団

第6代中部方面混成団長着任



MACB
QRコード
編集・発刊

中部方面混成団
本部広報室

Tel.077-523-0034

平成二十八年八月一日(月)、中部方面混成団長兼ねて、
大津駐屯地司令に佐藤正典一佐が着任した。
団長は、着任式で統率方針を「所命必遂」とし、「情熱」
「凡事徹底」「創意工夫」の三点を要望した。
着任後は、各隷下部隊を視察し、部隊の現況を把握する
と共に統率方針及び要望事項の徹底を各隊員に図った。



●統率方針
「所命必遂」

●要望事項
「情熱」
「凡事徹底」
「創意工夫」

- 経歴
- 第三十普通科連隊 (新発田)
- 幹部学校 (目黒)
- 第十四普通科連隊中隊長 (金沢)
- 中部方面總監部防衛部 (伊丹)
- 第五次ゴラン高原輸送隊長 (ゴラン)
- 陸上幕僚監部防衛部 (市ヶ谷)
- 陸上幕僚監部装備部 (市ヶ谷)
- 研究本部 (朝霞)
- 東北方面總監部防衛部 (仙台)
- 幹部学校 (目黒)
- 陸上幕僚監部付 (霞ヶ関)
- (総務省消防庁出向)
- 第三十六普通科連隊長 (伊丹)
- 三重地方協力本部長 (健康)
- 西方指揮所訓練支援隊長 (目黒)
- 幹部学校主任教官 (大津)
- 中部方面混成団副団長



巡閲



団長訓示



駐屯地施設の巡視



訓練施設視察



初登庁出迎え

中部方面混成団副団長齊藤一佐着任

平成二十八年八月一日付で、齊藤肇夫一佐が、新たに副団長として着任した。
齊藤一佐は、群馬県出身、防大三十期で、中部方面總監部人事部長、第四十七普通科連隊長等の要職を歴任されている。



副団長 齊藤1佐

深田一佐離任

深田一佐は、中部方面混成団長として、一年四ヶ月の勤務を終え、平成二十八年八月一日付をもって防衛大学校へ教授としてご栄転されました。
深田前団長は、着任時に、「情熱」「凡事徹底」の二点を要望され、団を統率し、また自らも実践された。
七月二十九日には、離任式が晴天の中挙行された。
見送り行事では、駐屯地全隊員の盛大な拍手で見送られ、駐屯地を後にした。



離任挨拶を述べる深田1佐



駐屯地全隊員による見送り



(海田市)

佐藤団長 47普連を初度視察



第四十七普通科連隊



状況報告



統率方針

「所命必遂」

要望事項

「情熱」

「凡事徹底」

「創意工夫」



生活隊舎



集約倉庫

連隊は、九月二十九日、海田市駐屯地において団長の初度視察を受けた。高山連隊長をはじめ、各幕僚、各中隊長らが出迎える中、海田市駐屯地に到着した団長は幹部挨拶の後、作戦室において状況を報告を受け連隊の概況を把握した。隊内巡視では、勤務隊舎、生活隊舎、集約倉庫、ATM倉庫を視察、現況を確認した。引き続き、みやび館で統率方針「所命必遂」、要望事項「情熱」「凡事徹底」「創意工夫」とともに、「第四十七普通科連隊が高山連隊長を核心に強固な団結の下、厳正な規律を維持し、土気旺盛な部隊を着実に創り上げ、陸上自衛隊一のコア連隊を目指し、更に発展することを期待する。」と訓示した。



LAM射撃準備



AAR(佐藤団長)



砲迫射撃要求

連隊統制訓練

連隊は、九月十七日から二十日までの間、原村演習場において、連隊統制訓練(常備一五二名、即自一三〇名、支援部隊二四名)を実施した。對抗部隊と演習部隊に分かれ、互いの攻撃に對し、バトラーを使用して防衛準備から防衛戦闘までの中隊長等の指揮及び隊員の基礎動作について常備・即自予備自衛官が一体となって練成した。また、AARにおいて、団長から実施される連隊訓練検閲の資とした。



2佐 飯畑 道広 (8月25日付)

定年退官

曹長 三好 旭 (8月24日付)

連隊は、平成二十八年九月二十六日から二十七日までの間、防災応急対処訓練を実施した。広島市安芸区に地震(震度六弱)想定の下に緊急登庁訓練から始まり、部隊の登庁時刻を把握及び時間の経過に伴う部隊の戦力化状況を把握した。人命救助シミュレーションでは鋼材、木材及びコンクリートブロック等の廃材を活用して機材の操作要領を演練した。今後も連隊は、広島土砂災害等で得た教訓を生かすとともに、本訓練を通じて更なる即応態勢の充実を図る。

防災応急対処訓練



第四十九普通科連隊



連隊指揮所訓練検閲



連隊は、平成二十八年八月二十三日から二十九日の間、方面指揮所訓練センターにおいて連隊指揮所訓練検閲を受閲した。

訓示において連隊長は二点の要望事項を掲げるとともに、「四十九連隊一丸となって、各隊員の持つ能力を最大限發揮し任務達成を勝ち取る。連隊の実力を証明するぞ。」と隊員を鼓舞した。



作戦会議

＜連隊長要望事項＞

【連隊本部】

「確実な現状の把握及び次に何があるかを見すえ、行動せよ。」

【中隊長以下】

「部隊の基本的行動を忠実に実行せよ。」



隊員を激励する最先任上級曹長



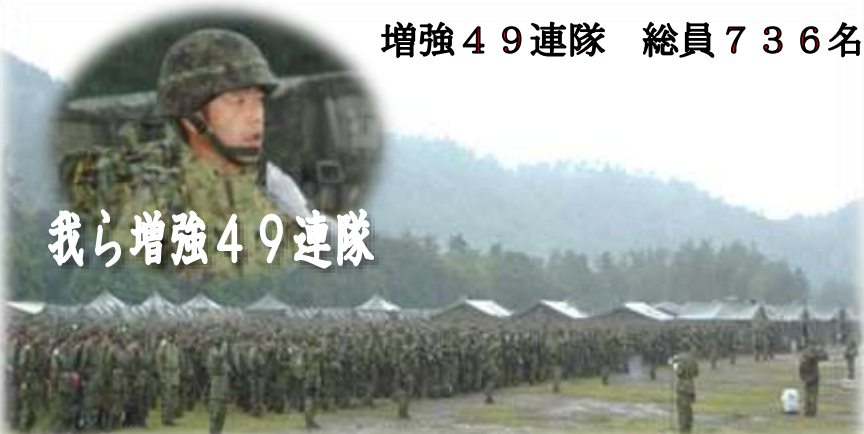
敵情解明にあたる情報小隊



訓練地域の警戒をする隊員

増強49連隊 総員736名

我ら増強49連隊



連隊構想示達



集結地の安全化を図る隊員

連隊訓練検閲に向けての連隊練成訓練

連隊は、平成二十八年九月二十一日から二十五日の間あいは野演習場において十一月に実施される連隊訓練検閲に向け連隊練成訓練を実施した。

本訓練は第一〇特科連隊第一大隊、第六施設群第三七一施設中隊、方面後方支援隊第三〇六普通科直接支援中隊の支援を受け増強四十九連隊を編成、九月二十二日、各出頭駐屯地に出頭した即応予備自衛官（総員四一八名）を現地に集結させ連隊訓練検閲に向けての隊員の認識の統一と訓練の再確認を行った。大粒の雨が降りしきる中、訓示において連隊長は、中隊の指揮機関に対し「機動と火力の連携」を、隊員に対し「敵を意識した行動」をそれぞれ要望するとともに、これまで積み重ねてきた練成の成果を最大限發揮し、常即一体となって任務を完遂することを期待した。

中級陸曹集合教育・陸曹基礎英語課程

第四陸曹教育隊



四六八名が中級陸曹集合教育に参加

隊（隊長 中山一陸佐）は、六月二十七日から十月十四日までの間、四ヶ月計四六八名に対し、中級陸曹集合教育（中曹教育）を実施した。

例年、中曹教育は六月から十月にかけて実施しており、連日猛暑日が続く中、各部隊から教育に参加した学生達は、意欲的に教育に取り組んでいた。

教育隊長は、訓練開始にあたり、「俺を見よ、俺に続けというリーダーシップを発揮できるがごとく自ら鍛えよ」と訓示し、学生達は課業内外を問わず、教育課目の受講や体力練成に励み、中級陸曹としての資質を養った。教育の最後には、一夜二日の総合訓練が実施され、徒步行進から攻撃までの一連の行動を演練し、約三週間の教育成果を遺憾なく発揮した。教育を修了した学生達は、部隊での活躍と再会を誓い合いそれぞれの原隊へと帰隊していった。

なお、中曹教育は、来年度から課程教育化（約六週間）される予定である。また、隊は、八月二十三日から十一月二十五日までの間、陸曹基礎英語課程を引き続き実施中である。



中級陸曹の砂盤による戦闘指導



中級陸曹訓練開始式（第13期）



中級陸曹総合訓練（第15期）



基礎英語課程の授業



体力検定



障害走



射撃予習

九月二十三（金）、共通教育中隊、普通科教育中隊で実施中であつた、第一二期陸曹候補生課程の学生二八二名が無事卒業式した。また、十月三日（月）には第一三期陸曹候補生一〇四名、第一二期初級陸曹特技課程一三九名の学生が着隊、約十二週間の教育を開始した。各部隊、各職種の将来を担う候補生達は、これから約三ヶ月、部隊で真に役立つ陸曹を目指し、汗にまみれて教育を履修する。

教育卒業・開始

第一〇九教育大隊



平成二十八年年度予備自衛官補等 招集教育訓練開始

大隊（大隊長 佐伯二陸佐）は、八月から平成二十八年年度予備自衛官補招集教育訓練（述べ一〇〇〇名）及び予備自衛官招集訓練（述べ二〇〇名）を開始した。今年度も、北陸から中四国にかけて幅広い年齢層の志高き隊員達が大量出頭し、皆やる気に満ち溢れ、訓練に励んでいる。本訓練を担当する各中隊の基幹隊員は、新隊員教育で培った指導力を活かし、一月末まで教育を実施していく。



着隊に伴い、訓示を述べる大隊長



初めてのガス体験



各種目、体力測定に臨む



基本教練の指導を受ける
予備自衛官補

操縦は人格なり



修了式



修了式にて区隊旗を返納

大隊は、四月四日から八月十日までの間、第二七期初級装輪操縦課程を実施し、部隊で真に役立つ十八名の操縦手を誕生させた。学生達は、約五ヶ月に渡る教育で操縦手としての基礎的技術及び技能を習得した。今後の活躍を期待するとともに、基幹隊員も常に自身自身と向き合い、内省していくことを忘れず、操縦から人生観へと波及させていくことの重要性を再認識した。

生活体験支援実施

大隊は、九月五日から九月七日及び九月十二日から九月十四日までの間、平成二十八年年度生活体験支援を実施した。第一回は、立命館大学の学生六名、第二回は積水ハウスの社員十六名に対し、自衛隊に対する理解を促進するとともに、防衛基盤の育成及び信頼の醸成を目的に教育を行った。訓練内容としては、基本教練、救急法、ロープ結策等を実施したが、研修者達は慣れない環境の中、興味を持って訓練に取り組んでいた。特にロープ結策では多様な結びの種類、用途に驚きの表情を見せていた。

第二二七期初級装輪操縦課程修了



基本教練の指導をする隊員



基本教練



ロープ結策の体験



心肺蘇生の体験

第一一〇教育大隊



大隊（射撃・持続走）競技会



射撃競技会



持続走競技会



個人入賞者



射撃・持続走優勝 333中隊

大隊（大隊長 増田二陸佐）は、平成二十八年九月二十九日、高屋射場において射撃競技会を、十月四日、善通寺駐屯地において持続走競技会を実施した。

両競技会とも、各隊員は夏の猛暑の中続けてきた練成の成果を遺憾なく発揮した。射撃競技会は、初めて八九式小銃を使用した競技会であったが、小雨にも拘わらず所望の練度を示すとともに、一月の団競技会への教訓を得た。団体の部は三三三中隊が三連覇を果たした。

また持続走競技会は、軽装の五キロ走で実施したが、個々の走り込みの成果を発揮し、最後まで全力を尽くしてゴールを駆けぬけていた。団体の部は、同じく三三三中隊が四年ぶりに優勝し、射撃とともに二冠を制した。

- 射撃競技会
 - ・団体の部
 - 優勝 第三三三共通教育中隊
 - 準優勝 第三二七共通教育中隊
 - ・個人の部
 - 第一位 三一七中隊 宮本二曹
 - 第二位 三三三中隊 難波三曹
 - 第三位 三三二中隊 堀内二曹
- 持続走競技会
 - ・団体の部
 - 優勝 第三三三共通教育中隊
 - 準優勝 第三三二共通教育中隊
 - ・個人の部
 - 第一位 三三二中隊 川本二曹
 - 第二位 三三三中隊 小西三曹
 - 第三位 三三三中隊 富永三曹



隊内巡視



国分台演習場視察（歩哨訓練場）



状況報告

任務に当たる次第である。

愛情あふれた教育を実施することにより、明るく前向きな教育の実施に努めてもらいたい。」とお言葉を貰い、より一層気を締めて

基本教育に従事する一員として常に己を磨き、教育者としての誇りをもって活模範を示し、厳しさの中にも

度視察を受けた。

当初、状況報告を実施するとともに隊舎及び演習場等をご案内し、大隊の概要を把握した。

団長訓示において、「熱意をもって基本教育等を実施するとともに、松山駐屯地への移駐準備を着実に実施していることを確認した。

大隊は、九月十四日から十五日までの間、団長の初

混成団長初度視察